

中国春季リーグ戦男子1部 Final stage 結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

5/13、14に福山平成大学体育館において、男女1部 Final stage が開催されました。

広島大学男子の結果は、以下のとおりです。

vs 岡山大学

○3-1 (25-22、25-13、22-25、25-20)

vs 東亜大学

●0-3 (15-25、19-25、16-25)

vs 広島修道大学

○3-0 (25-11、25-20、25-15)

- 1位 東亜大学 9勝1敗
- 2位 福山平成大学 9勝1敗
- 3位 広島大学 6勝4敗
- 4位 広島経済大学 4勝6敗
- 5位 広島修道大学 2勝8敗
- 6位 岡山大学 0勝10敗

サーブレシーブ賞 樋口 雄飛

(広大バレー部 Twitter)

<https://twitter.com/hiro daiVOLLEY>

新1年生がリーグ戦に初めて帯同し、セッターの丹羽とリベロの出口が早速デビューを果たしました。今季は5位と6位が昇格チームであり、リーグ全体のレベルが上がりましたが、その中でも2人はあたかもこれまでずっといたかのような堂々たるパフォーマンスで、選手層に厚みが増しました。レシーブを得意とする1年生が多いことで、稲葉や村上をはじめ、チームとしてレシーブへの積極性が伝わってきます。レシーブの質やネット際のプレー、二

段トスの精度はまだまだ高めていかなければなりません、今年の伸びしろを感じられたことが大きな収穫になりました。

リーグ戦を通してメンバーチェンジを数多く行いましたが、最終戦の東亜戦を見据えてメンバーを固定できた福山平成大学に対し、広大は模索を続けている段階です。新1年生が加入し、試合に出場できる、ベンチ入りできるメンバーが大きく変わろうとしていますので、各々限られたチャンスを生かして欲しいと思います。人数が多くなったことで逆に練習の質が落ちてしまわないように、休日は女子と練習時間をずらして二面を確保するなど、チーム全体のレベルアップができるよう工夫が必要だと思います。

また、中国学連委員長の羽角、副委員長の尾崎を筆頭に、多くの上級生がサポートメンバーとして大会を支えてくれました。最終日は大勢の観客に見守られて試合を行うことができ、コロナ禍前のリーグ戦を知る人にとっては、熱い大会が戻ってきた、と心を震わせたことと思います。特別な環境は、特別なことやものから生まれるものではなく、見えない地道な積み重ねから知らず知らずのうちに築き上げられるものです。ベンチ入りメンバーもサポートメンバーも、大会ごと、試合ごとに求められる役割は異なります。それぞれのポジションで責任を果たせるように、日々の練習から準備していきましょう。

1か月に及ぶリーグ戦でしたが、倉敷、下関、福山の各地でたくさんの方々からご声援をいただきました。

劣勢の場面でも温かい拍手をいただき、チームの背中を何度も押していただきました。誠にありがとうございました。

次の公式戦は、中四国大会が5/27から岡山県で開催されます。

引き続きよろしく願いいたします。